

地域に根差す

青葉消防団通信

2015.11
Vol.02

注目!!
横浜市消防操法技術訓練会
青葉区代表チーム密着取材!!

青葉区第2分団、団員紹介
消防団、秋の活動記録

特集

消防団積載車・装備品お見せしちゃいます!!

消防団員
募集中!!

みんなの街の消防団を大解剖!!

知らなかった～!! は、まだまだい～っぱい!!
消防団通信、第2回目は、青葉消防団第二分団の団員をご紹介します。



副団長 白井 久美

日頃より消防団活動への御理解・御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。
近年、全国各地で大規模災害が発生しており、横浜市内においても自然災害による被害が毎年発生している状況です。
このような中、即時対応力に優れた消防団は地域防災の中核として欠くことのできない存在となっています。
青葉消防団ではこのような様々な災害に備えるため地域とのつながりを深めながら地域防災力の強化を図り、より『地域に根差す』ことを目標として活動しています。



二分団長 廣田 豊彦

青葉消防団第二分団は青葉区の中心を流れる谷本川の流域を担当として9個班で構成され、現在男性・女性消防団員159名が在籍しています。火災出場はもちろん、日頃の訓練や器具点検、防災指導・救命講習等の活動に従事しております。また、鴨志田町の第7班が日本体育大学健志台キャンパスをお借りして可搬式消防ポンプ操法の訓練を実施し、10月17日実施された横浜市消防操法技術訓練会に青葉区代表として出場しました。今後とも地域の防火・防災に尽力する所存でありますので、どうぞ皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

第二分団・1班から9班の団員達です!!



1班

四季の移り変わりを日々感じつつ頑張っています



2班

地域防災活動に頑張っています



3班

地域の安全・安心のため全班員16名で日々頑張っています



4班

地域の防災や活性化のためベテランと若者が団結して頑張ります



5班

防災活動等、地域のために力を合わせ活動しています



6班

地域の皆様の安心・安全のために頑張ります!!



7班

横浜市消防操法技術訓練会の青葉区代表でした



8班

団員募集中です。皆で地域を守り、町を活性化させていきましょう



9班

地域のイベントに積極的に参加しています



横浜市消防操法技術訓練会 (消防団の部)

10月17日(土)横浜市消防操法技術訓練会(消防団の部)が開催され、青葉区代表として第2分団7班が出場しました。この訓練会は小型消防ポンプを使い水槽から水を吸い上げ、ホース3本を延長して放水するまでのタイムと、いかに安全確実に操作するかを競うものです。結果は20消防団中、総合で7位、技術審査では4位という成績を収めました。この日のために半年間積み重ねた訓練が活かされ機敏に活動している姿を見てとても頼もしく感じました。
青葉消防団はこうした訓練を普段から実施することで、災害への対応力を養い、いざという時に備えています。



特集

消防団積載車・装備品 お見せしちゃいます!!

青葉消防団積載車

『積載車』とは消防団が災害活動を行う際の消防車の呼び方です!!
積載車には可搬式消防ポンプ、ホース、はしごなどの災害に使用する道具がたくさん積まれています



平成 17 年製

普通車タイプ



平成 11 年製

普通車タイプ



平成 22 年製

軽自動車タイプ

消防団の装備品

消防用ホース

1本の長さが20mあり何本も結合して使用します。ホースの太さは65mm、50mmがあり、重さは約5~8kg、水が通っている状態だと、40~65kgにもなります!!



防火衣

火災出場の際に着装



可搬式ポンプ

人力で搬送ができる大きさの消防ポンプ!! 街にある消火栓・防火水槽などから取水し圧力をかけて水を遠くまで運び放水します



ホースカー

ホースを何本も積載してホースを延長します

スタンド型パイプ

消火活動現場において消火栓が地面より深い位置にある時に使用する事でスムーズに吸水作業を行う事ができます

バルーン投光器

夜間の災害時に現場を照らします



訓練旗

災害出場時ではなく、訓練の時に車両を運行する際に掲示します



無線ハーネス

携帯無線機を収納。災害現場で無線機が邪魔にならず、両手が使えて活動がスムーズ♪

チェーンソー

自然災害等による倒木で通行できなくなった道路上の障害物排除や倒壊した木造建物内から要救助者を救助する際に使用します



消火栓のかぎ

消火栓の蓋を開放する時に使用します。消火栓の蓋を開放した後は消火栓に差し込んで反時計回りに回して水を出し、時計回りに回すと水が止まります。ご家庭の蛇口とは反対回りなのです!!

管鎗

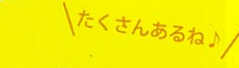


ホースの先につける大きなノズルを「かんそう」(管鎗)といいます。遠くまで水をとどかせたい時にはストレート放水、広範囲にとどかせたい時には霧状の水を出すことができる噴霧放水に切り替えができます

油圧式救助器具



倒壊した建物等の重量物に挟まれた要救助者を救助するための資機材です



青葉区はとても大きいね!!



あなたの地域の消防団はどこかな??

第二分団管轄区域

- 第1班 鉄町
- 第2班 黒須田
- 第3班 大場町・みすずが丘
- 第4班 市ヶ尾町（上市が尾）246号線以北
- 第5班 市ヶ尾町（下市が尾）246号線以南
- 第6班 寺家町
- 第7班 鴨志田町・たちばな台一～二丁目・成合町
- 第8班 上谷本町・もえぎ野・みたけ台・柿の木台
- 第9班 藤が丘一～二丁目・下谷本町・千草台・梅が丘

消防団研修・講習

風水害対策講習会

6月28日(日)風水害対策講習会を青葉区役所5階会議室で行いました。当日は鶴見川沿いの鶴見消防団、港北消防団、都筑消防団、青葉消防団の4団が参加しました。昨年、横浜市内において台風第18号による大雨で、土砂崩れとがけ崩れが発生し、2名の尊い命が奪われました。近年、局地的な大雨等により全国においても甚大な人的・物的被害を及ぼす土砂災害が頻発しています。このような中で、横浜市総務局危機管理室に講師の派遣を依頼して、土砂災害の種類や関係法令についての基礎的な知識、気象情報や、横浜市の土砂災害対策についての講義を受けました。日々の訓練だけでなく、講習による知識の研鑽も実施しています。



機関科研修

7月5日(日)・12日(日)両日の夜間に区内の自動車学校の教習コースをお借りして機関科研修が実施されました。機関科研修は、積載車(消防団の消防車両のことです)を運転する人(『機関員』と呼びます)に対して、積載車運行時における安全確認要領や誘導要領についての確認を行い、安全かつ迅速に災害現場まで到着するための研修です。今回は、緊急走行時における赤信号の交差点通行要領、道幅が狭い道路の通行・指定位置駐車の際の誘導要領、V字クランクを後退で通行する要領の3つの訓練を実施しました。参加した団員からは「夜間での緊急走行時の交差点進入要領(一旦停止)、誘導の重要性、また災害現場までのルートを把握する必要性など再認識できた研修でした。」との感想も頂き、機関員は勿論、誘導員にとっても今後の活動に活かせる訓練になりました。



あざみ野まつり

8月30日(土)あざみ野まつりが開催され、青葉消防団も『防災カフェ』のブースを出展しました。防災カフェでは、火災の煙の恐ろしさを体験することができる煙ハウス、心肺蘇生やAED(自動体外式除細動器)の体験コーナー、子供防火衣を着ての記念撮影を行いました。当日は小雨が降る中、たくさんの方々を訪れていただきました。防災カフェにちなんで、消防団募集の印刷されたスティックコーヒーのグッズを配布し、また、子供達に渡した消防団員募集の風船の花が沢山咲いていました。



青葉消防署との合同震災対応及び情報受伝達訓練

8月31日(日)青葉消防署と合同で震災を想定し、火災対応訓練及びデジタル簡易無線機を活用した情報受伝達訓練を実施しました。この訓練は9月1日の防災の日を前にして、震災により青葉区内において同時多発的に火災が発生したとの想定のもと、各班の器具置場に団員が動員して、そこから積載車により指令を受けた指令場所に出場、実際に放水を実施し消火活動訓練を行いました。災害の状況については、無線機により分団本部に報告、その後消防団本部で情報を集約して消防署と情報の共有を図る訓練をしました。いつ発生するかわからない震災への備えを固めています。



消防団員募集中

消防団は、普段は自分の職業や学業を持ちながら、平常時には地域の防火・防災の担い手として、また、災害発生時には、消火・警戒などの消防活動を行い、地域の防災リーダーとしての役割を担っています。

近年、消防団員数は減少傾向にあり、高齢化も進んでいることから、将来の担い手となる若い団員の確保に取り組んでいます。

今後、区内企業の社員の方々や大学生に入団を呼びかけ、消防団の活性化に繋げるとともに地域防災体制の一層の充実を図っていきたくと考えています。

●入団資格は…

消防団員の身分は、特別職の地方公務員です。

年齢18歳以上で、かつ、横浜市青葉区に居住、勤務、在学のいずれかが当てはまる人であれば男女問わず入団できます。実際に学生の消防団員も活発に活動しています。また、普段の活動は夜間、土日が中心です。



青葉消防署 庶務課

☎045-974-0119